



学校法人・服部学園「服部栄養専門学校」の校長で料理評論家の服部幸應氏が逝去された。

初めてお会いしたのは20年以上も昔である。仕事の関係でお話するチャンスをおいただいたのだが、それ以降、機会があるごとに様々な相談に乗っていただき、多くの薫陶をいただいた。

コロナウイルスのパンデミックまでは、毎年の「服部栄養専門学校」の学園祭にお邪魔するのが恒例で、招待状をいただく身の特権として校長室にお招きいただき、服部氏と面談できるのが楽しみであったが、3年間の空白を経て、ようやく2023年にお邪魔させていただいた際には、少し小さくなられ、心な



しかお歳を召した感じがしたのを覚えていた。それでも、従前のように賓客の対応でお忙しいのにわざわざお時間を割いてくださり、短い時間だがきちんと対応してくださったことは鮮明に覚えている。

本誌の取材でもインタビューをお願いしたことがあったが、半年先までスケジュールがいつばいという状況の中で、何とか遣り繰りをしてお時間を割いてご対応いただいた。しかも、きちんと1時間ほどの時間をご用意くださり、真摯な取材対応をしてくださったことは、忘れることのできない経験であった。

どんな時でも、服部氏はまずきちんとこちら側の話を聞いてくださり、それが無知蒙昧な世迷いごとであり、それが無知蒙昧な世迷いごとであったとしても、いつも真剣な眼差しで耳を傾けてくださり、そして懇切丁寧な対応と回答をいただいたことは忘れることができない。

ご承知のように、服部氏は「食育基本法」の成立に尽力をされ、教育の3本柱である知育、徳育、体育に

プラスして、新たな柱として「食育」を位置づけることよって日本の「食」を文化にしてゆく活動をされ、それと同時にテレビ等への露出を重ねて、日本の食文化の発展にも寄与され、下水道資源の有効利用への取り組み「BIESTRO下水道」のネーミング決定の際にもお世話になった。

グルメ番組に登場した若い女性タレントの箸の持ち方があまりにも酷かったので、収録を中止して1から教えたという逸話もある。

近年は、食育とともにオーガニックの普及にも寄与され、食の安全への提言も数多くされていたが、兎にも角にも服部氏抜きに、今の日本の「食」を語ることはできないだろう。

夏の暑い日にお邪魔した際に気さくにパピコを半分折って手渡ししてくださった服部氏の、ちよつとお茶目で飾らない笑顔が忘れられることができない。

ご冥福をお祈り申し上げます。

(溪)

月刊
公論

11月号 第57巻11号

令和6年11月1日発行 毎月20日発売
本体価格1,100円(税込) 送料87円

発行人 大 中 吉 一 編集人 林 溪 清
発行所 株式会社財界通信社
〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町10-12 ボナフラスビル
TEL.03-5379-5611(代) FAX.03-5379-5616
印刷所 株式会社広済堂ネクスト
取次店 日本出版販売/楽天ブックスネットワーク

- 直接ご購入をご希望の方は、本社までお問い合わせ下さい。
- 万一、乱丁、落丁などの不良品がございましたら、お取り替えいたします。